

子どもたちの「生きる力」を育む 社会の創造

提 言

令和3年3月

富山経済同友会
教育問題委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 直近（第10～11次）の教育問題委員会での活動と課題等	2
(1) 課外授業講師派遣事業	2
(2) 海外教育事情視察	2
(3) 経済同友会教育担当委員会交流会	3
(4) 教師と企業人との交流	4
(5) コロナ禍を通して再認識した学校の役割	4
3. 提言（今後の方向性と具体的な方策）	5
(1) 教師・学校に対する取り組み	5
(2) 子どもたちに直接アプローチする取り組み	6
(3) 親（保護者）・家庭に対する取り組み	7
(4) I C T教育の推進	8
4. おわりに	10

参考資料

I) 「生きる力」とは	11
II) これまでの取り組み状況	12
III) 課外授業講師の派遣実績	18
IV) 「海外教育事情視察」に関するアンケート結果	22
V) 「教師と企業人との交流」の開催実績	25
VI) 「教師と企業人との交流」に関するアンケート結果	26
VII) 第11次教育問題委員会 委員名簿	30

子どもたちの「生きる力」を育む社会の創造

1. はじめに

富山経済同友会では、我が国の発展の根幹は教育であるとの考えのもと、平成10年度に第1次教育問題委員会を立ち上げてから20年余りにわたって、富山県の教育に企業人としての立場に関わりを持ち、教育現場や家庭教育の在り方への提言と、それを踏まえた具体的な活動を行ってきました。

しかしながら、少子高齢化や人口減少、価値観の多様化、技術革新、経済のグローバル化などが急速に進む中、教育を取り巻く環境も大きく変化し、学校や家庭、地域社会においても多くの課題が生じています。さらに令和2年の新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大は、我々の生命や生活、社会、経済のみならず、行動や意識、価値観にまで甚大な影響を及ぼしています。

このように急激に変化する時代の中で、次代を担う子どもたちは、様々な社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に「生きる力」を、自ら高めていくことができる人間となることが重要です。

我々企業人が求める人間像は、道徳心や倫理観、規範意識など豊かな人間性や社会性の基盤となる「公德心」を身に付け、「自ら課題を発見し解決する力」「コミュニケーション力」「リーダーシップ」「向上心」「粘り強く取り組む力」「新たな価値を創造する力」「自分らしい生き方や成功を追求する力」などといったそれぞれの人生を自ら切り拓く力を備えた人間です。子どもたちがそうした力を身に付けることができるよう、大人が必要な力や人間像を理解し、子どもたちにどう考え、どう行動すべきかを伝え、これらの力を着実に育んでいくことが必要です。

予測困難で先行き不透明な時代となる中で、一人一人が答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われています。これからの社会がどんなに変化しようとも、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、自ら行動し、それぞれに思い描く人生を自ら切り拓いていくために必要な力が「生きる力¹」です。

子どもたちが、令和の、そして、コロナ後の新しい時代を自らの力で生き抜いていくために、我々富山経済同友会は、子どもたちの「生きる力」を育む社会の実現を目指して、発信・行動していきます。

¹ 参考資料Ⅰ)「生きる力」とは(11頁)参照

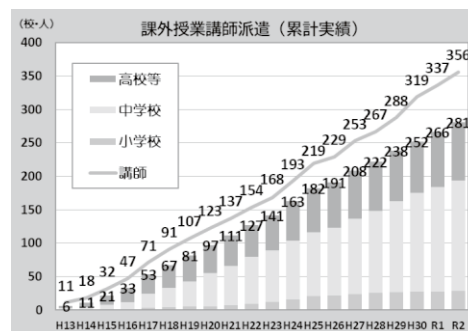
2. 直近（第10～11次）の教育問題委員会での活動と課題等

（1）課外授業講師派遣事業

当会の会員有志を学校の課外授業のゲスト講師として派遣する本事業は平成13年度から実施しており、本次（平成31年4月～令和3年3月）は延べ29校37人の講師を派遣しました。事業開始以降の延べ数は281校356人と着実に派遣実績を積み重ねており、県内の学校に広く周知され、定着が図られています²。

職業観の醸成や進路選択、人生の生き方などをテーマに、企業経営者が実体験を交えて語る授業は、子どもたちはもとより教師からも好評を得ているものの、受講した児童生徒は全体の一部に過ぎず、より多くの子どもたちが受講できるよう、事業のさらなる浸透を図っていくことが必要です。

また、魅力的な授業の組み立てや分かりやすい伝え方等を学ぶ「課外授業オリエンテーション」を行うなど、講師のスキルの研鑽に努めることにより充実した授業を実施し、事業の質的向上を図っていくことも重要です。



課外授業の様子

（2）海外教育事情視察

現役の教師に海外の先進的な教育現場等を当会会員とともに視察する機会を設けることで、富山県教育をリードする中核的教員として今後の教育実践で役立ててもらおうとともに、経済界と学校教育との交流・連携を図ることを目的に、これまで9回の「海外教育事情視察」を実施し、79人の教師と延べ47人の会員が参加しました。

日本とは異なる海外の教育システムを具体的に学ぶことができ、参加した教師からは日本に戻ってからも自身の指導教育に活用していると報告を受けています。また、異国の歴史・文化

海外教育事情視察			
	視察先	参加教員	同友会員
第1回（H20）	フィンランド、デンマーク	8人	4人
第2回（H21）	瀋陽、上海、台北	8人	4人
第3回（H23）	ドイツ、スイス	8人	5人
第4回（H25）	ドイツ、オーストリア、チェコ	9人	7人
第5回（H27）	ニューヨーク、ボストン、ワシントンD.C.	10人	4人
第6回（H28）	フィンランド、デンマーク	9人	5人
第7回（H29）	シンガポール、台湾	9人	5人
第8回（H30）	シアトル、サンフランシスコ	9人	8人
第9回（R元）	ドイツ、ベルギー、フランス	9人	5人



台湾教育部国教署（第7回）

² 参考資料Ⅲ）課外授業講師の派遣実績（18頁）参照

に触れることで視野が広がったことや、普段は接することがない企業人との交流を通して、

「多面的に物事を捉えることの大切さがわかった」「人間力を高めることの大切さを感じた」

「社会が教師に期待していることが理解できた」など様々な気付きがあり、海外の教育システムを学ぶこと以上に、教師自身の人間力・指導力といった「教師力」の向上に意義のある事業と言えます³。

しかし、コスト面や時間的な制約、参加できる教師の人数が限られることが大きな課題となっています。海外事情を知ることも有益ではあるものの、「どこに行ったかはもちろん、誰と行ったかが重要だった」と、企業人との深い交流が貴重な気付きにつながったという意見もあることから、これまでの視察の成果を生かしながら、別の形態で教師力向上のための研修・交流事業を検討していきます。

（３）経済同友会教育担当委員会交流会

平成25年度より富山・群馬・新潟・栃木県・中部の５経済同友会の教育問題を担当する委員会が意見交換を行い、それぞれの活動に資するよう交流事業を実施していますが、当会からは会員と一緒に教師も参加し、連携・交流を深めています。

幹事となった地区同友会では、例えば、地元産業界と連携した実践的なものづくり教育に取り組む学校や、教師を民間企業へ派遣する「長期社会体験研修」など、地域の特色ある教育事業を視察させていただき、大変貴重な機会となっています。

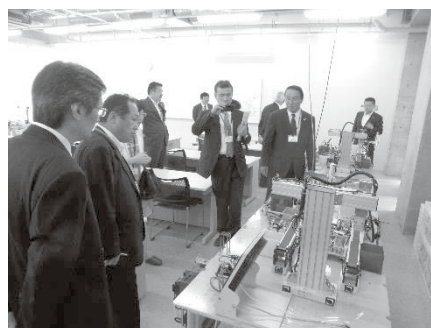
視察を通じて、改めて教育現場と企業が連携することの大切さや、教師の企業就労体験を行う研修の必要性を感じたところです。



ビーコンヒルインターナショナル小学校
(第8回)



EU議会（第9回）



「愛知県立愛知総合工科高等学校」視察
(第5回中部開催, H29)



各地経済同友会の活動報告
(第6回富山開催, H30)

³ 参考資料Ⅳ「海外教育事情視察」に関するアンケート結果（22頁）参照

（４）教師と企業人との交流

第9次委員会の提言「子供たちの『人間力』を育むために」に基づき、教師と企業人がともに学び合い、そこから得られる気付きにより、「教師力の向上」を図ることを目的として、平成30年度及び令和元年度に各3回に渡って、42名の教師が参加し当会会員との交流を行いました。企業経営者の講話や他県の教師の事例発表などの後、企業が求める人間像や子どもたちの「生きる力」を育む必要性和そのためにはすべきことについて意見交換を行いました。

参加した教師からは、「新しい視点を持つことができた」「キャリア教育の参考となった」などの意見が出され、子どもたちの「生きる力」の育成が必要であるということは共有できたものの、「教師力」を高めるためにどうしていけばよいか分からないとの声もありました⁴。

また、多忙を理由に参加に消極的な意見もあったことから、実施に当たっては教師の負担感の軽減を考慮する必要があると感じています。

さらに、民間企業の職場体験を希望する意見や、校務運営に参考となる民間ノウハウを知りたいという意見もあったことから、交流事業をさらに進展させると同時に民間のノウハウを教育現場に落とし込んでいく必要があると考えています。



基調発表、グループディスカッション
(H30第2回)



パネルディスカッション形式の発表
(R1第3回)

（５）コロナ禍を通して再認識した学校の役割

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、学校は臨時休校となり、子どもたちが学校に通えない状況が長期化しました。諸外国とは異なりオンライン授業への対応も遅れ、想定外の事態に学習に対する空白期間が生じ、教育の格差が懸念された一方で、学校に通えない状況が続いた中で、子どもたちや各家庭において学校がいかに大きな存在であったのか、その役割が再認識されたところです。

さらに、コロナ禍は我が国がデジタル後進国で、ICT技術を教育界にも積極的に取り込み、有効に活用できる環境を整えることが喫緊の課題であることを示しました。

⁴ 参考資料V「教師と企業人との交流」の開催実績（25頁）、参考資料VI アンケート結果（26頁）参照

3. 提言（今後の方向性と具体的な方策）

（１）教師・学校に対する取り組み

「教育は人なり」と言われるように、将来を担う子どもたちの教育は教師にかかっています。教師自身が、子どもたちの「生きる力」の重要性を深く認識するとともに、高い「教師力」を身に付けていくことが大切であり、そのためには、教育現場の外に出て企業等の異分野でインターンシップの経験をするなど、いろいろな社会との交流を図りながら「教師力向上」の機会を充実させていくことが必要です。

また、子どもたちへの教育を改変していくためには、教師のゆとりを創出することも重要です。学校の役割が過度に拡大し、様々な課題に対応しなければならない教師の疲弊感を解消し、これまで以上に教育の本質に真摯に向き合えるよう、教育現場の「働き方改革」を進めていくことが必要です。

具体的な方策

・教師と企業人等との多様な交流機会の創出 【教育委員会、地域、同友会・企業・経済団体】

これまで、教師の資質向上に対する研修は、授業力に関することが主でしたが、子どもたちの「生きる力」の育成には、「教師力」の向上こそが求められており、企業人との交流を通して得る学びの機会を、より多くの教師が参加できるよう教員研修の一環として提供することが必要です。また、企業での職業体験の要望や校務運営のために民間ノウハウを知りたいという意見もあったことから、教師と企業人との交流事業を幅広く展開していくことも大切です。

さらに、教師自身が企業や社会が求める人間像と現状のギャップをより理解するためには、企業人だけでなく、様々な人と意見交換し、課題を共有して、多くの気づきを得ていくことが必要です。教師と企業人をはじめとした異分野との多様な交流を推進していくため、教育委員会や経済界、地域社会などの関係機関による検討組織を設置するなど、一体となって取り組んでいくことが望まれます。

・教師の中長期インターンシップの実施 【文部科学省、教育委員会、同友会・企業・経済団体】

マネジメントスキルの向上や、多様な選択肢を子どもたちに示せるよう幅広い経験を積む観点から、夏休み期間等を活用した４週間程度の企業インターンシップを教員研修として実施することが望まれます。

さらに、１年間にわたる長期の企業研修も可能とすることで、研修に参加した教師が、短期の職場体験では知ることのできない企業の人材育成の取り組みや社会に有為な人材の在り方など様々なことを学び、学校に戻ってからキャリア教育の推進役として活躍することが期待できます。

また、教員養成課程においても、企業インターンシップを研修として導入することが、将来の教師力を涵養し、社会で必要となる「生きる力」を育む教育を実現するために必要だと思われます。

・ **経済界や地域社会による学校教育への支援** 【地域、同友会・企業・経済団体】

学校教育における様々な課題を解決し、教師が真に必要な教育活動を効果的に
行うことができるように、各学校の実情に応じて、様々な分野における専門性や
幅広い経験を有する人材が学校教育に関与していくことが重要であり、そのため
には企業や地域が幅広い人材の供給源となることが望まれます。

企業経営者として、従業員が教材開発や学習プログラムの提供、部活動指導や
学校行事に協力することを推奨するなど、企業の多様な人材やノウハウを学校教
育に活かしていくとともに、定年等で新たなライフステージを迎える方には、こ
れまでの幅広い経験と専門性を活かして教壇に立つことに加え、学校運営におい
ても保護者への対応や事務の効率化など企業で培った能力を活かすことが期待さ
れます。

また、学校における働き方改革を実現するためにも、学校や教師が担う業務の
明確化・適正化を図り、教師が真に専門性を発揮すべき領域に集中できるように
しなければなりません。学校・教師以外が担うべき業務や負担軽減が可能な業務
を整理し、連携・分担するなど、教師の多忙化解消のために、地域全体で子ども
たちの学びや学校・教師を支える環境づくりを進めていくことが大切です。

(2) **子どもたちに直接アプローチする取り組み**

企業人が人生で経験してきた成功体験や失敗から学んだことを伝えることは、子
どもたちにとって貴重な学習の機会となります。さらに、郷土の自然、歴史・文化
のほか、産業や先人の英知・偉業等を学ぶことは、ふるさとを思う心を醸成し、社
会に貢献できる人材の育成につながります。課外授業講師派遣事業がより多くの学
校に活用してもらえるよう、さらなる普及啓発に努めるとともに、事業の一層の充
実を図っていきます。

また、職業体験として富山県は全国に先駆けて「14歳の挑戦」や「17歳の挑戦」
事業を実施していますが、1週間では経験できることは限定的です。子どもたちが
積極的に職業体験に参加できる機会を作るため、経済界が連携して取り組むことが
必要です。

具体的な方策

・ **課外授業講師派遣の拡充** 【同友会】

従来の課外授業では、主に企業経営者自身の体験を語ることがほとんどでした
が、加えて企業の様々な専門分野に関する講話（工業・金融・IT・サービス・
医療・環境など）を行うことにより、企業人がどのような職業観をもって働いて
いるかを子どもたちに伝えるだけでなく、富山県の企業が保有する独自の技術・
サービス・商品等を紹介することは、ふるさと教育の観点からも重要です。

そのためにも、当会会員及び会員企業のキャリアや専門的知識などを整理し、

学校に示せるよう講師リストの充実を行い、県全域の教育サービスとして提供できるよう整備するとともに、より多くの学校で課外授業が実施されるよう働きかけていくことが大切です。

また、「課外授業オリエンテーション」の充実により講師スキルの研鑽を図るとともに、学校の要望に応じながら、双方向の対話形式の授業やグループで意見を議論・共有しながら進める授業等を増やすなど、「学びを支援し、子どもたちに寄り添う」かたちの協力ができるよう改善を図っていくことが必要です。

・職業体験事業のさらなる推進 【教育委員会、同友会・企業・経済団体】

「14歳の挑戦」や「17歳の挑戦」だけでなく、幅広く子どもたちに職業観や将来の夢を考える機会を与えるために、長期休暇や休日等を活用して、より多くの職業体験を提供することが必要です。

小・中学生には、夏休みや週末に、企業等が体験可能なプログラムを提供し、児童生徒が選択をして応募する、「ハローワークの子ども版」のようなシステムを作ることにより、職業体験の機会を増やすことが望まれます。

就職志望の高校生には、複数回のインターンシップを行うことにより、働くことや学校での学びの意義を理解し、職業選択の機会とすることが必要です。さらに、進学志望の高校生も就労体験を行うことにより、職業観を醸成し将来の進路選択の参考とできるよう、社会体験活動として評価される仕組みを構築することが必要だと思われます。

また、企業や経済団体には、子どもたちの職業体験を積極的に受け入れることで、キャリア教育活動への支援を通して企業のCSR活動を推進し、子どもたちの企業活動の理解を促進する取り組みが必要です。

(3) 親（保護者）・家庭に対する取り組み

本来、社会的規範意識など公德心を育む教育は家庭で行うべきものですが、学校に頼っている親が多く存在しており、家庭教育の大切さについて、親自身の意識を高めることが求められています。親でありコミュニティの構成員でもある従業員を抱える企業としても、役割を果たしていかなければなりません。

これまで当会で取り組んできた「伝えよう“親心”推進月間」の設定による啓発活動を継続、充実するとともに、企業の社会的責任として、家庭教育は親の責任であること、従業員の「生きる力」を身に付ける機会、親としての成長の機会を提供することが大変重要です。

具体的な方策

・家庭でのふれあい機会の創出 【同友会・企業・経済団体】

企業経営者として、従業員が家族との時間を十分持てるよう働き方改革を推進

するとともに、従業員の親代わりとして家庭教育に関心を持ち“親心”を伝えることは、子育てに悩む従業員への側面的な支援はもとより、優秀な人材の確保・育成、企業価値の創造にもつながります。企業が社会的責任を果たすため、従業員のワークライフバランスの充実を図り、家庭でのふれあいの機会の創出に積極的に取り組むことが求められます。

また、PTAなどの子育てに関する活動に積極的に参加するための支援を行うだけでなく、企業側から参加を促すことも必要です。

・ **家庭の教育力向上に対する取り組み** 【教育委員会、同友会・企業・経済団体】

豊かな情操、他人に対する思いやり、善悪の判断、社会的なマナーなどの公德心や自制心、自立心など「生きる力」の基礎的な資質や能力は、家庭教育においてこそ培われるものであり、親がその責任を十分発揮できるよう、家庭と学校や企業などが連携・協働し、地域ぐるみで支援していくことが大切です。

子育てに悩みや不安を抱える親に対し、子どもの発達段階に応じた対処法をアドバイスできる「社内子育てアドバイザー」等を選任し、若い親である従業員に親としての心構えを教えるなど、企業として従業員の子育てをサポートしていくことが必要です。

また、富山県では「とやま親学び推進事業」が行われ、「推進リーダー養成の研修」や「親学び企業内啓発講座」などが開催されてきましたが、これらの事業に企業がより積極的に取り組み、研修を充実させていくことも必要です。

・ **企業における「仕事参観」の実施** 【同友会・企業・経済団体】

子どもたちに親の「生きる力」を具体的に示すためには、親の働いている姿を見せることが有効です。このため、子どもたちをはじめ従業員家族を対象とした「仕事参観」の開催や、地域とのふれあいを通じて次世代の人材育成を推進する観点から小・中学生を対象とした「企業見学会」を実施することを奨励します。

こうした仕事参観を通して、親の働く姿を見たり、企業経営者等と直接話をすることで、働くことの意義や必要とされる能力等に気付くことができ、子どもたちの「生きる力」の創出につながると考えられます。

(4) ICT教育の推進

我が国の学校におけるICT環境の整備とテクノロジーの活用は、先進諸国に比べて大きく遅れていることが、コロナ禍によって顕在化しました。

まずはすべての小・中・高等学校において遠隔でも授業ができる環境の整備が必要です。さらに、リモート授業のコンテンツを充実させ、それを十分に活用できる能力を教師自身が身に付けるとともに、通常の対面授業でもICTツールを活用し、能力や習熟度に合わせた学習ができるように取り組んでいくことが必要です。

なお、コロナ禍においては、学びを保障する手段としての遠隔授業やオンライン教育が注目されましたが、一方で、教師による対面指導や、子ども同士による学び合い、地域社会での多様な体験活動など、リアルな体験を通じて学ぶことの重要性も改めて認識されたところです。子どもたちを支える教師には、ICTも活用しながら、個に応じた学びの充実を図ってほしいと思います。

具体的な方策

・ ICT機器の積極的な活用 【教育委員会】

児童生徒一人に一台の端末を配布する環境整備を行うこと、そしてその端末を家庭で利用できる環境を整え、遠隔での授業を可能とすることにより、コロナ禍のような事態で子どもたちが学校に行けなくても、必要な教育を提供することができるようになります。さらに積極的な活用によって、学校で出された課題の深掘りや授業の復習、各児童生徒の理解度に合わせたオンライン授業や、一人一人の特性や成績、習熟度の一元管理が可能となります。

端末の持ち帰りを実現するためには、すべての家庭で通信環境を確保することや、子どもたちを有害サイトなどから守るためのセキュリティソフトの導入が必要であり、自治体はこれを十分に支援していく必要があります。

また、学校の授業でも電子黒板等の授業用ツールの充実や、デジタル教科書・教材など良質なコンテンツの活用促進など、デジタルならではの学びの充実を図っていくことが必要です。ICTを効果的に活用した授業を行うことが進めば、児童生徒は習熟度別に学習しながら、教師は理解度向上のためのフォローにまわることができるようになり、授業の質も高まっていくと思われます。

・ ICTツール活用のためのリテラシー向上支援 【教育委員会、同友会・企業・経済団体】

将来を見据えた教育改革を進める観点からも、対面授業と同等の質の高い教育が提供できるよう、教師がICTツールを駆使できる能力を身に付けることが求められます。

また、子どもたちがICTツールを適切かつ効果的に活用できるよう、ICTリテラシーやICT社会で必要となるコミュニケーション力を育成していくことも重要であり、学校の授業でも積極的にICTツールを使う機会を創出し、スパイラルアップしていく必要があります。

そのためには、ICTツールを使った学習手法の開発も必要ですが、企業及び経済団体は、コンテンツの開発支援やICT支援員等の人材供給に協力するなどして学校教育を支援していかなければなりません。一人一人の学びの充実にICTの持つ特性を最大限活用し、教育の質の向上につなげていくことが重要です。

4. おわりに

富山経済同友会では、「持続的な社会の発展のために、次世代の育成は最重要課題である」との考えのもと、企業人としての立場で教育問題に取り組んできました。

子どもたちの「生きる力」は、学校だけでなく家庭や地域社会が相互に連携しつつ社会全体で育てていくものであり、社会のあらゆる場で子どもたちに接する全ての大人たちが、生き生きと輝き、人生を切り拓いていく姿を子どもたちに見せることが大切です。

本提言では、子どもたちが「生きる力」を高め自らの力で人生を切り拓ける人間となることを支えるために、教師・企業人を含めた全ての大人たちがお互いの交流を通して学び人間力を高めていくための道程を提示しました。

子どもたち一人一人の可能性を最大限に引き出すために、我々経済界も地域社会の一員として共に行動し、新しい時代にふさわしい教育の実現に貢献してまいります。そして、明日の富山県・将来の日本社会の明るい未来を、共に創っていきましょう。

結びに、第10次・11次教育問題委員会の活動にご協力いただいた教育関係者をはじめ事業に携わっていただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

【参考資料】

I)「生きる力」とは

「生きる力」 — それは、知・徳・体のバランスのとれた力のこと

変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の知・徳・体をバランスよく育てることが大切

○確かな学力

基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力

○豊かな人間性

自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など

○健康・体力

たくましく生きるための健康や体力

(文部科学省資料より作成)

□「公德心」

公德心とは、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にする心である。一人一人の日常生活の中で具体的に生かされることで、住みよい社会が実現できる。(文部科学省資料より)

□「人間力」

社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力
※次のような要素を総合的にバランスよく高めることが、人間力を高めることと定義

構成要素	内 容
知的能力的要素	「基礎学力（主に学校教育を通じて修得される基礎的な知的能力）」、「専門的な知識・ノウハウ」を持ち、自らそれを継続的に高めていく力。また、それらの上に応用力として構築される「論理的思考力」、「創造力」など
社会・対人関係力的要素	「コミュニケーションスキル」、「リーダーシップ」、「公共心」、「規範意識」や「他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力」など
自己制御的要素	上記の要素を十分に発揮するための「意欲」、「忍耐力」や「自分らしい生き方や成功を追求する力」など

(内閣府資料より)

□「教師力」(教員に求められる資質能力)

○教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情)

○専門職としての高度な知識・技能

・教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)

・新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)

・教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力

○総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)

◇ これまで教員として不易とされてきた資質能力に加え、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力や、情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に結びつけ構造化する力などが必要

◇ アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、道徳教育の充実、小学校における外国語教育の早期化・教科化、ICTの活用、発達障害を含む特別な支援を必要とする児童生徒等への対応などの新たな課題に対応できる力量を高めることが必要

◇ 「チーム学校」の考えの下、多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力の醸成が必要

(文部科学省資料より)

Ⅱ) これまでの取り組み状況

区 分 (委員長名) (活動期間)	提言タイトル	内 容
第1次委員会 (黒田 昭 委員長) (平成10・11年度)	家庭教育を見なおす ～子どもと共に親も 学ぶ～	○「家庭を考えるフォーラム」の開催を提言 ○課外授業講師派遣制度の創設を提言 ○地域コミュニティ支援を提言 ○交流勉強会の実施を提言
第2次委員会 (谷道 昭 委員長) (平成12～14年度)	21世紀にはばたく子 どもたちのために ～続・家庭教育を見 なおす～	○家庭でのふれあいの機会の創出を提言 a 従業員やその配偶者の出産に際し、早い時期 から子どもとの交流が深まるよう低年齢児用絵 本を贈ること b 子どもの誕生日には、従業員に残業をさせな い、又は夜勤を免除するなど、子どもと一緒に 誕生日を祝うことができるようにすること c 父親である従業員が積極的に育児に参加でき るよう気兼ねなくタイムリーに休暇を請求し、 取得できるような職場環境を整備すること ○教員の企業での研修機会の提供を提言 ○家庭教育を見なおすフォーラムの開催 平成12年度 3回 平成13年度 1回 平成14年度 1回 ○課外授業講師の派遣 平成13年度 6校へ11名を派遣 平成14年度 5校へ7名を派遣 ○交流勉強会の実施（教育関係者等との交流） 平成12年度 1回 平成13年度 2回 平成14年度 5回

区 分 (委員長名) (活動期間)	提言タイトル	内 容
第3次委員会 (林 和夫 委員長) (平成15・16年度)	親として、企業人として ～続々・家庭教育を見なおす～	○家庭でのふれあいの機会の創出に関して提言 ・贈呈用絵本のリスト作成・提示 ・「家庭の日」の周知 ○「わが家のきまり」のすすめを提言 ○家庭教育を見なおすフォーラムの開催 平成16年度 1回 ○課外授業講師の派遣 平成15年度 10校へ14名を派遣 平成16年度 12校へ15名を派遣 課外授業オリエンテーション開催を提案 ○交流勉強会の実施（教育関係者等との交流） 平成15年度 4回 平成16年度 10回
第4次委員会 (高田順一 委員長) (平成17・18年度)	伝えよう、“親心” ～家庭教育を見なおすIV～	○家庭でのふれあいの機会の創出に関して提言 ・携帯版「わが家のきまり」カードの作成、配布 ・「子育て支援企業エントリー制度」登録推進 ○「家庭教育アドバイス講座in企業」の実施を提言 ○従業員家族を対象とした社内見学会の開催を提言 ○家庭教育を見なおすフォーラムの開催 平成18年度 1回 ○課外授業講師の派遣 平成17年度 20校へ24名を派遣 平成18年度 14校へ20名を派遣 課外授業オリエンテーションの実施 ○交流勉強会の実施（教育関係者等との交流） 平成17年度 7回 平成18年度 16回

区 分 (委員長名) (活動期間)	提言タイトル	内 容
第5次委員会 (藤井久丈 委員長) (平成19・20年度)	企業人はオヤジ役 ～家庭や学校での教育を支えよう～	○家庭でのふれあいの機会の創出 「伝えよう“親心”推進月間」(8月,9月)の設定 ○「家庭教育サポート宣言」を提言 ○仕事と子育ての両立に関する調査の実施 (平成19年度) ○家庭教育に関するフォーラムの開催 平成19年度 1回 ○課外授業講師の派遣 平成19年度 14校へ16名を派遣 平成20年度 16校へ16名を派遣 課外授業オリエンテーションの実施 ○交流勉強会の実施(教育関係者等との交流) 平成19年度 17回 平成20年度 21回 ○海外教育事情視察の実施 平成20年度 フィンランド、デンマーク
第6次委員会 (大橋聡司 委員長) (平成21・22年度)	「生きる力」を育む 教育に向けて ～日本の国力の源泉 “公德心”の復活 を目指して～	○家庭でのふれあいの機会の創出 「伝えよう“親心”推進月間」(8月,9月)の設定 ○「家庭教育サポート宣言」の発表(平成21年度) ○「仕事と家庭の両立支援推進シンポジウム」の開催 (平成21年度) ○「子どもたちに読んでほしい1冊」の募集・冊子 とりまとめ 33冊 ○課外授業講師の派遣 平成21年度 14校へ14名を派遣 平成22年度 16校へ17名を派遣 課外授業オリエンテーションの実施 ○交流勉強会の実施(教育関係者等との交流) 平成21年度 29回 平成22年度 34回 ○海外教育事情視察の実施 平成21年度 中国(瀋陽、上海)、台湾(台北)

区 分 (委員長名) (活動期間)	提言タイトル	内 容
第7次委員会 (高見貞徳 委員長) (平成23・24年度)	公共の精神を尊び、 「生きる力」を備えた人間の育成のために ～「教育は国家百年の大計」である～	○家庭でのふれあいの機会の創出 「伝えよう“親心”推進月間」(8月,9月)の設定 ○「教育問題の基本を学ぶ会」の開催 平成24年度 2回 ○「第21回経済同友会中央日本地区会議」の主管 新潟同友会教育問題委員会と交流(平成24年度) ○課外授業講師の派遣 平成23年度 14校へ14名を派遣 平成24年度 22校へ25名を派遣 課外授業オリエンテーションの実施 ○交流勉強会の実施(教育関係者等との交流) 平成23年度 29回 平成24年度 33回 ○海外教育事情視察の実施 平成23年度 ドイツ、スイス
第8次委員会 (藤井裕久 委員長) (平成25・26年度)	—	○家庭でのふれあいの機会の創出 「伝えよう“親心”推進月間」(8月,9月)の設定 ○「親学勉強会」の開催(平成25年度) ○北陸新幹線開業イベント『「技術革新」を実感する電車の旅」(平成26年度) ○栃木県同友会教育担当委員会と交流(平成25年度) 経済同友会教育担当委員会交流会 平成25年度 富山経済同友会主管 平成26年度 群馬経済同友会主管 ○課外授業講師の派遣 平成25年度 19校へ26名派遣 平成26年度 9校へ10名派遣 課外授業オリエンテーションの実施 ○交流勉強会の実施(教育関係者等との交流) 平成25年度 22回 平成26年度 31回 ○海外教育事情視察の実施 平成25年度 ドイツ、オーストリア、チェコ

区 分 (委員長名) (活動期間)	提言タイトル	内 容
第9次委員会 (藤井裕久 委員長) (平成27・28年度)	子供たちの「人間力」 を育むために ～教師と企業人が交 流し共に学ぶ～	○家庭でのふれあいの機会の創出 「伝えよう“親心”推進月間」(8月,9月)の設定 ○講演会「イクボス推進による人材力・生産性の向 上」の実施(平成27年度) ○経済同友会教育担当委員会交流会 平成27年度 新潟経済同友会主管 平成28年度 栃木県経済同友会主管 ○課外授業講師の派遣 平成27年度 17校へ24名派遣 平成28年度 14校へ14名派遣 課外授業オリエンテーションの実施 ○交流勉強会の実施(教育関係者等との交流) 平成27年度 25回 平成28年度 16回 ○海外教育事情視察の実施 平成27年度 アメリカ合衆国 平成28年度 フィンランド、デンマーク
第10次委員会 (伊東潤一郎 委員長) (平成29・30年度)	—	○家庭でのふれあいの機会の創出 「伝えよう“親心”推進月間」(8月,9月)の設定 ○「教師と企業人との交流」の実施 平成30年度 3回 ○経済同友会教育担当委員会交流会 平成29年度 中部経済同友会主管 平成30年度 富山経済同友会主管 ○課外授業講師の派遣 平成29年度 16校へ21名を派遣 平成30年度 14校へ31名を派遣 課外授業オリエンテーションの実施 ○教育講演等の実施 平成29年度 4回 平成30年度 6回 ○海外教育事情視察の実施 平成29年度 シンガポール、台湾 平成30年度 アメリカ合衆国

区 分 (委員長名) (活動期間)	提言タイトル	内 容
第11次委員会 (伊東潤一郎 委員長) (令和元・2年度)	子どもたちの「生きる力」を育む社会の創造	○家庭でのふれあいの機会の創出 「伝えよう“親心”推進月間」(8月,9月)の設定 ○「教師と企業人との交流」の実施 令和元年度 3回 ○経済同友会教育担当委員会交流会 令和元年度 群馬経済同友会主管 ○課外授業講師の派遣 令和元年度 14校へ18名を派遣 令和2年度 15校へ19名を派遣 ○教育講演等の実施 令和元年度 4回 令和2年度 4回 ○海外教育事情視察の実施 令和元年度 ドイツ、ベルギー、フランス

Ⅲ) 課外授業講師の派遣実績

■令和元年度

(※敬称略。講師の役職等は派遣当時のもの)

No.	開催日	学 校 ・ 対 象	講 師	内 容
1	R1. 6. 11(火)	富山市立岩瀬中学校 全学年 (300名)	遊道 義則 (株)ユニオンランチ 取締役社長	「働くということ ～変化に対応して成長する習慣を身につけよう～」
2	R1. 6. 12(水)	南砺市立福光中学校 2学年 (63名)	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	「社会に生きる～働くことについて～」
3	R1. 7. 1(月)	高岡市立牧野中学校 2学年 (70名)	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	「よりよく生きる」
4	R1. 7. 10(水)	富山県立小杉高等学校 1学年 (120名)	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	「A I 時代を生きる若者たちへ」
5	R1. 7. 11(木)	富山県立高岡商業高等学校 2学年 (240名)	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	「よりよく生きる」
6	R1. 8. 30(金)	南砺市立平中学校 全学年 (37名)、保護者	伊東 潤一郎 (アイティオ株) 取締役社長	「働くことと幸せに生きること」
7	R1. 9. 4(水)	高岡市立志貴野中学校 2学年 (192名)	稲葉 伸一 (株)三四五建築研究所 代表取締役	「楽しく生きる」
			尾城 敬郎 (三菱商事株) 北陸支店長	「夢は正夢」
			尾山 謙二郎 (マンパワーセキュリティ株) 代表取締役	「生きる力」
			福崎 秀樹 (株)フクール 代表取締役	「A I 時代を生きる」
			森 弘吉 (株)エムダイヤ 代表取締役	「人生楽ありゃ苦もあるさ」
8	R1. 9. 11(水)	富山市立山室中学校 2学年 (206名)	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	「よりよく生きる」
9	R1. 9. 13(金)	黒部市立桜井中学校 2学年 (131名)	伊東 潤一郎 (アイティオ株) 取締役社長	「働くことと学ぶこと」
10	R1. 9. 20(金)	高岡市立戸出中学校 2学年 (95名)	堀田 信一 (日本海ツーリスト株) 取締役社長	「人生、プラス発想で」
11	R1. 9. 28(土)	富山県立魚津高等学校 1学年 (160名)	山野 昌道 (株)チューリップテレビ 取締役社長	「自分の夢の見つけ方」
12	R1. 11. 11(月)	富山県立高岡商業高等学校 2学年会計科 (40名)	林 和夫 (朝日建設株) 取締役社長	「生きること、学ぶこと、働くこと」
13	R1. 11. 27(水)	砺波市立出町中学校 3学年 (241名)	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	「よりよく生きる」
14	R1. 11. 29(金)	富山県立富山高等支援学校 全学年 (65名)	山野 昌道 (株)チューリップテレビ 取締役社長	「人生を幸せにする3つのコツ」

(14校18名)

■令和2年度

No.	開催日	学 校 ・ 対 象	講 師	内 容
1	R2. 8. 28(金)	南砺市立平中学校 全学年 (37名)、保護者	田村 元宏 (株)タムラ設計 代表取締役	「生きるために必要なこと」
2	R2. 9. 9(水)	射水市立射北中学校 2学年 (118名)	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	「よりよく生きる」
3	R2. 9. 26(土)	富山県立魚津高等学校 1学年 (160名)	山野 昌道 (株)チューリップテレビ 取締役社長	「自分の夢の見つけ方」

No.	開催日	学 校 ・ 対 象	講 師	内 容
4	R2. 10. 14(水)	富山県立小杉高等学校 1 学年 (158名)	遊道 義則 (株)ユニオンランチ 取締役社長)	「目標と目的 ～一度の人生を幸せに生きるために～」
5	R2. 10. 20(火)	富山県立高岡南高等学校 1 学年 (41名)	小川 万里絵 (日本銀行 富山事務所長)	「金融経済における日本銀行の役割」
6	R2. 11. 2(月)	富山市立岩瀬中学校 全学年 (301名)	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長)	「よりよく生きる」
7	R2. 11. 4(水)	滑川市立滑川中学校 2 学年 (176名)	福崎 秀樹 (株)フクール 代表取締役)	「A I 時代を生き抜く！」
8	R2. 11. 9(月)	氷見市立北部中学校 2 学年 (108名)	高瀬 幸忠 (株)スカイインテック 専務取締役)	「社会の一員として働くこと」
9	R2. 11. 11(水)	高岡市立志貴野中学校 2 学年 (182名)	市森 友明 (株)新日本コンサルタント 取締役社長)	「学習の目的を知って 努力を楽しくしよう」
			伊東 潤一郎 (アイティオ(株) 取締役社長)	「働くことと幸せに生きること」
			上田 信和 (砺波工業(株) 取締役社長)	「将来の夢は？」
			戸塚 健 (富士通(株) 富山支店長)	「自分の弱さは武器になる」
			尾山 謙二郎 (マンパワーセキュリティ(株) 代表取締役)	「生きる力」
10	R2. 11. 13(金)	富山市立山室中学校 2 学年 (197名)	遊道 義則 (株)ユニオンランチ 取締役社長)	「働くということ、生きるということ。 ～目標を達成する習慣をつけよう～」
11	R2. 12. 2(水)	富山市立北部中学校 1・2 学年 (324名)	山野 昌道 (株)チューリップテレビ 取締役社長)	「自分の夢の見つけ方」
12	R2. 12. 18(金)	富山県立富山高等支援学校 全学年 (51名)	森藤 正浩 (正栄産業(株) 代表取締役)	「よりよく生きる 働くとは」
13	R3. 2. 9(火)	富山市立速星中学校 1 学年 (333名)	遊道 義則 (株)ユニオンランチ 取締役社長)	「働くということ、生きるということ。 ～目標を達成する習慣をつけよう～」
14	R3. 2. 18(木)	氷見市立比美乃江小学校 5・6 学年 (129名)	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長)	「よいチームの作り方 ～リーダーとフォロワーの在り方～」
15	R3. 3. 5(金)	富山県立富山北部高等学校 1 学年 (239名)	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長)	「A I 時代によりよく生きる」

(15校19名)

■【参考】実施件数及び講師派遣人数

年度	小学校	中学校	高校等	計	講師
H13		3	3	6	11
14		1	4	5	7
15		4	6	10	14
16		4	8	12	15
17	3	9	8	20	24
18	1	8	5	14	20
19	1	9	4	14	16
20		12	4	16	16
21	2	9	3	14	14
22	2	11	3	16	17

年度	小学校	中学校	高校等	計	講師
H23	3	7	4	14	14
24	4	11	7	22	25
25	4	8	7	19	26
26	1	6	2	9	10
27	2	12	3	17	24
28	2	9	3	14	14
29	1	14	1	16	21
30	1	11	2	14	31
R 1		9	5	14	18
2	1	9	5	15	19
計	28	166	87	281	356

【参考】活動レポート（抜粋）

富山市立岩瀬中学校

令和元年6月11日(火)、遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長)が富山市立岩瀬中学校において、全学年300名を前に「働くということ ～変化に対応して成長する習慣を身につけよう～」をテーマに課外授業を行った。

遊道社長ははじめに、「世の中で役に立たない仕事というものはない」とし、「人の役に立てることに喜びやうれしさを感じ、これを働きたい、生きがいにすることを習慣化しよう」と説いた。

次に、哲学者フランシス・ベーコンの格言を引用して、「我々は言葉を使っていると考えがちだが、実は言葉に支配されている。だから、何気なく使っている言葉がとても大切である」とし、「自分の願望を実現するためには、これを明確な言葉にして周りと共有し、『正直』に『集中』すべきである」と言葉の不思議さと大切さについて語った。

続けて、「変化」と「成長」について触れ、人生においては常に変化がおこるものであり人はそれをストレスと感

じるが、変化を恐れるのではなく自分自身をアップグレードできる「ワクワク、ドキドキするもの」と位置付けることが「成長」であると述べた。

そして、「目標」と「目的」の違いやその意義を説明したうえで、全ての「結果(have)」は、「ある行動(do)」によってもたらされ、その「行動のあり方(be)」の影響を強く受けるとし、常に「あり方」を念頭に置き、問い直すことが重要であると強調した。

最後に、行動することの大切さ、挑戦により自分のパターンを超えること、言い訳をせず責任をとること、協力して周りと共に成長することなど、自分自身を成長させるキーワードを紹介して講演を締めくくった。



「大切なのは『やる』ということ！」と遊道社長

富山県立高岡商業高等学校

令和元年11月11日(月)、林和夫氏(朝日建設株取締役社長)が富山県立高岡商業高等学校において、2学年会計科40名を前に「生きること、学ぶこと、働くこと」をテーマに課外授業を行った。

林社長ははじめに、ある看護師の発した「人間が生きているのには必ず意味がある」という言葉に感銘を受けたことを紹介した後、アンパンマンマーチの「何のために生まれて 何をして生きるのか 答えられないなんて そんなのはいやだ」の歌詞の持つ意味について問いかけ、さらに中村天風氏の「ばい菌一匹でも、目的無くこの世に出てきたものは無い」、日野原重明先生の「いのちは時間。時間を使うことでいのちが形になる」という言葉を挙げて、「生きること」の本質について説いた。

続けて、自身の大学時代を振り返り柔道ばかりやっていた勉強はしなかったが読書はたくさんしたということに触

れ、読書は頭の栄養になると語った。また、“philosophy”(哲学)という言葉は“philo”(愛する)と“sophy”(知ること)から成り立っているとし、なぜ知ることを愛するのか、それは、よりよく生きるためによく知ることが必要であるからだ述べた。

最後に、「働くこと」は世の中の役に立つことであり、時間(いのち)を世のため人のために有意義に使うことによって自分も有意義に生きることができると強調して授業を締めくくった。



「よりよく生きるためにたくさん本を読もう」と林社長

砺波市立出町中学校

令和元年11月27日(水)、牧田和樹氏(株)牧田組 取締役社長)が砺波市立出町中学校において、3学年241名を前に「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長ははじめに、今後AIが社会の様々な領域で活躍する時代になり、従来の仕事の内容が大きく変わるが、重要なのは将来自分が就く仕事をどのように選択するか、仕事をするうえでどんな力が求められるかを考えることであり、人の心や感情に関わること、人と人との間を取り持つことは人間にしかできないという視点を持つことが必要であると述べた。

人と人との関係においては、異なる意見や価値観を調整し互いが満足し納得できるようにすることが求められるが、そうした時に必要なのは、相手の話を聴いてその背景を知るとともに自分の思いをしっかりと伝えるという対話であ

ると説いた。

さらに、そのためには、なぜ相手はそう思うのか、どうしたら自分の思いを相手に正しく伝えることができるかという「思いやり」を持つことが必要であり、これこそが来るべきAI時代への対処であると強調した。

最後に、絶対やってほしいこととして、計算する力をつけること、文章を読む力をつけることの2点を挙げるとともに、重ねてよりよく生きるうえでのベースは「思いやり」であると強調して授業を締めくくった。



「正解のない問題を解くヒントは『思いやり』」と牧田社長

富山県立高岡南高等学校

令和2年10月20日(火)、小川万里絵氏(日本銀行富山事務所長)が富山県立高岡南高等学校において、1学年計41名を前に「金融経済における日本銀行の役割」をテーマに課外授業を行った。

小川事務所長ははじめに、日本銀行の組織と役割を説明し、経済の持続的な発展のためには物価の安定が必要であり、物価が安定していない状態では、金融市場へ資金を供給・吸収するオペレーションなどの手段により金利の誘導等を行い、景気の悪化や過熱に対応していると、日本銀行の金融政策について理解を促した。

次に、新型コロナでは、個人消費の減少や雇用・所得環境の悪化、設備投資の減少などの国内要因のほか、海外要因として、インバウンドの減少や輸出の減少、サプライチェーンの寸断など、日本経済に様々な影響があったことを説明し、企業等の資金繰り支援や金融市場の安定確保な

どの日本銀行の政策対応を紹介した。

さらに、経済・物価情勢の判断材料である実質GDPやIMF世界経済見通し、実質輸出入、個人消費、設備投資などの各種指標の動向を踏まえたうえで、わが国の経済・物価の現状と先行きの展望を確認した。

最後に生徒の質問に答え、「高校3年間はあっという間だが、人生を振り返ってみた時には大きなウェイトを占める意味のある期間。今しかできないこと、やりたいことに力いっぱい取り組んでほしい」とエールを送り授業を締めくくった。



「経済のグローバル化で英語力が求められる」と小川事務所長

富山市立北部中学校

令和2年12月2日(水)、山野昌道氏(株チューリップテレビ取締役社長)が富山市立北部中学校において、1・2学年324名を前に「自分の夢の見つけ方」をテーマに課外授業を行った。

山野社長ははじめに、「なぜ働かなければならないのか」を生徒に問いかけ、「社会は皆で作るものであり、働くということは社会を作っていく一員になることである」と説いた。

そして、「将来、何になるのか?」とこれから真剣に考える時がくるが、自分のやりたいことは簡単には分からないし、夢も簡単には決まらない。それでも何かを見つけたと思うなら、「考えるだけではなく行動し続けることが必要であり、一日一日を一生懸命に生きるしかない」と強調した。

さらに、努力しても成功するとは限らないが、成功するには努力が必要であるとしたうえで、苦勞のないところに

やりがいはなく、辛く厳しい体験が感動に繋がっていく。「苦勞や努力こそがやりがいであり感動そのものである」と語った。

最後に、夢を見つけるためには、「知識を得る」「大人に聞く」「やってみる」「目の前

のことに真剣に取り組む」ことが大切であるとし、「人生は選択の連続だが、選択に迷った時、どちらが正しかったかは一生分からない。選んだ方が正解になるよう、その後の人生を作っていくことが大事であり、将来のために充実した一日一日を積み重ねていってほしい」と述べ、授業を締めくくった。



「夢はどんどん変わっていい」と山野社長

富山県立富山高等支援学校

令和2年12月18日(金)、森藤正浩氏(正栄産業株式会社代表取締役)が富山県立富山高等支援学校において、全学年51名を前に「よりよく生きる 働くとは」をテーマに課外授業を行った。

森藤代表ははじめに、「仕事の目的はお客様に喜ばれることであり、人生の目的は誰かに喜ばれること」としたうえで、人生の3分の1の時間を占める仕事を、お金を得る手段として嫌々やるのはもったいない。「仕事には面白い仕事もつまらない仕事もない。仕事を面白くする考え方とつまなくする考え方があるだけだ」と語った。

続けて、今の自分が存在するのは、両親や祖父母が命のバトンを途切れることなくつないで来てくれたからであり、今ここにいることへの感謝を忘れずに、人に喜んでもらえるよう、人の為に尽くすことが大切であると説いた。

そして、稲盛和夫氏の人生の方程式「人生の結果＝能力×意欲×考え方」を紹介し、能力や意欲とともに、人とし

ての正しい考え方をもつことが何よりも大切であるとした。さらに、毎日ほんの少しの努力でも積み重ねることで確実に成長につながるとし、「努力は自分を裏切らない」と強調した。

最後に、「今日という1日は人生の中で二度とない。365分の1日で生きるのではなく、1分の1日を大切にしてほしい」とし、「皆が何にでもなれるし、どんなことでも出来る。人生の可能性は無限に広がっており、自分の力を信じて、‘今から、ここから、自分から’始めてほしい」と激励して授業を締めくくった。



「誕生日は両親に感謝する日でしょう」と森藤代表

Ⅳ)「海外教育事情視察」に関するアンケート結果

【アンケート調査の概要】

- ・ 調査期間：令和2年10月16日～11月4日
- ・ 調査対象：「海外教育事情視察」参加教師79名（団長・副団長を含む）
- ・ 回答数：74名（回答率 93.7%）

問① 視察に参加して、どのような“気づき”や“学び”が得られましたか。

○教育システムに関して

- ・ 日本の教育が学ぶべきことは多いと痛感した
- ・ 改めて日本の教育の良さを認識することができた
- ・ 自国の子どもたちの実態に合った実践を積み重ねていくことが大切だと思った
- ・ 自ら学び取らせる教育の必要性、主体的なキャリア教育、グローバル化に対応した教育の重要性に気付いた
- ・ 思考力や表現力をつけるための未来を見据えた授業改革が必要だと感じた

○企業人と接して

- ・ 視野が広がり、今までの固定観念に捉われなくなった。物事をより広いスケールで考えることができるようになった。世界観を広げることができた
- ・ これまでとは異なる視野や人脈を広げる努力が不可欠と気付いた
- ・ 教師として知識と信念が不足していること、学校教育以外の知見に貧しいことに気付いた
- ・ 教師はどうあるべきか、何をすべきか考えさせられた
- ・ 豊かな人間性を育てるためには、自分の人間性を高めていくことが大切であると学んだ
- ・ 教師として人間力を高め、成長することが生徒の育成にもつながると考えた
- ・ 教師の資質能力の向上（自分自身の研鑽も含め）が重要であるということを再認識できた
- ・ 常に自分をアップデートしながら学び続けることの大切さを学んだ

○その他

- ・ 校種を超えた情報交換、深い結びつきを得ることができた
- ・ 人とのつながりの大切さ、誰と学ぶかの大切さに気付いた
- ・ 教師である自分の役割を再度見直す契機となった
- ・ 教育がもつ大きな使命を感じた
- ・ 広く社会における「教育の在り方」を再考する機会となった

- | | | |
|-------------------------------------|-----|-----|
| ・ 海外の教育システムから学びを得た | ・・・ | 45名 |
| ・ 企業人との交流により、見識・視野が広がった、刺激を受けた | ・・・ | 37名 |
| ・ 日本の教育システムの良さに気付いた | ・・・ | 7名 |
| ・ 教育の在り方を考える機会となった、教育への期待、重要性を再認識した | ・・・ | 6名 |

問② 得られた“気づき”や“学び”は、その後の学校現場での指導等に活かされましたか。

- ☐ おおいに活かせた （42名）
- ☐ 少し活かせた （27名）
- ☐ あまり活かせなかった （4名）
- ☐ 全く活かせなかった （1名）

問③ どのように活かせたか、又は、なぜ活かせなかったのか、具体的に教えてください。

【活かせた】

- ・授業の中でICTを積極的に活用し、生徒の意欲を高めることができた
- ・「主体的・対話的で深い学び」のイメージを持って、授業のやり方を実践している
- ・生徒の自主性、主体性を活かす取り組みを積極的に進めている
- ・進路指導のやり方を見直した、キャリア教育を意識した学習を展開した
- ・日本と海外との異なりを意識した説明ができ、説得力が増したと感じる
- ・異文化を理解するために、まずは自国を理解する必要があると確信し、日本文化や日本人のものの考え方を伝えるよう心がけている
- ・学校の内外の研修会などを通じて、他の教師に伝えることができた
- ・自主的な研修グループを立ち上げ、仲間とともに定期的に研修を行うようになった
- ・その後の自己研鑽、モチベーションアップにつながっている
- ・自らの考え方の幅を広げること、常に大きな視点で学校教育を捉えることができた
- ・問題を抱える生徒や問題がある状況に対して、多様な視点で考えられるようになった

【活かせなかった】

- ・生徒に対する指導では活かせるが、前例主義の学校という組織では活かせないことが多い
- ・学級内でしか、紹介・情報交換する場がもてなかった

- ・「授業・指導における活用」が多く（46名）、次いで「教師間での共有、発表」（16名）、
「自身の考え方、意識の変化」（14名）
- ・個人では活かせたが、学校組織内では活かせなかった、という意見もあった

問④ 視察に参加して、自分自身にどのような変化がありましたか。

- ・生徒の将来の姿を想像しながら、長期的な視点からアドバイスできるようになった
- ・どのような生徒を育てていきたいか、より深く考えるようになった
- ・教師の甘さ、リーダーとして大事な資質について考えさせられた
- ・リーダーとしての責任、使命、やる気を持つことができた
- ・いろいろなことに興味を持ち、新しいことに挑戦することで、自分の人間性をもっと豊かにしたいと思い、前向きに取り組むようになった
- ・様々な本を読む、情報を得る、講演会に参加するなど、これまでよりも広い視野で学びを深めるようになった
- ・教育だけでなく、経済、社会、政治といった分野にも視野を広げること、異業種の方との交流を意識的にもっていくことを大切にしている
- ・世界的な視点で教育に求められていることやできることを考えながら、目の前の課題に取り組む意識を持つことができた
- ・教育に携わることへの重責を改めて認識した
- ・教師としての仕事にやりがいと喜びを感じ、日々覚悟を持って仕事に携わるようになった

- ・視野や関心が広がったなど自身の考え方の変化（34名）、新たな挑戦や自己研鑽の取り組み（17名）が多かった
- ・教師としての責任や意識の変化を挙げているものもあった

問⑤ 「海外教育事情視察」の他に、どのような事業があれば良いと思いますか。経済同友会に対する要望、意見などをお聞かせください。

- ・ 経済同友会との交流、意見交換、討論会、勉強会（合宿形式） [17]
 - ・ 講演会開催、講師派遣（講演会、研修、進路講座） [15]
 - ・ 企業研修、職場体験、教師インターンシップ [10]、 企業訪問、視察 [4]
 - ・ 国内視察（特徴ある学校、先進校、学ぶべきスキルを持った教師） [5]
 - ・ 生徒の海外派遣、海外留学支援 [3]
 - ・ 教師向け研修 [2]
 - ・ 家庭、保護者向けの事業、イベント [2]
 - ・ 海外教育事情視察の継続 [4]、 参加者交流 [3]
-
- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| ・ 海外先進事例・政策の分析・集約 | ・ 富山紹介の英語教材化 |
| ・ 企業紹介 | ・ 異業種交流会 |
| ・ 企業人による授業参観 | ・ 社会人講師の若手人材バンク |
| ・ 職業教育プログラムの開発 | ・ I C T教育へのサポート |
| ・ 学校の働き方改革の推進 | |
| ・ 子ども、教師、保護者、経済同友会でのフォーラム | |
| ・ 教師と企業人が連携した文化・スポーツ活動、社会貢献活動 | |
| ・ 経済同友会と教職大学院との連携による教師育成プログラム | |

V)「教師と企業人との交流」の開催実績

(1) 趣 旨

教師と企業人とが交流することで、そこから得られる「気づき」を共有し、互いの視野を広げ、「人間力」を持った子どもたちの育成につなげることを目的に実施

※ 第9次教育問題委員会の提言「子供たちの『人間力』を育むために～教師と企業人が交流し共に学ぶ～」(平成29年4月公表)において、企業人と教師がともに学び合い、双方の人間力を高めることで、人間力を持った子どもたちの育成に取り組んでいくこととした。

(2) 開催内容

【平成30年度】

同友会会員が講師として「これまでの歩み」をテーマに冒頭講話を行った後、教師力向上、子どもたちの人間力育成には何が必要か等について、グループディスカッションを行った。

[参加教師 21名(小学校7、中学校6、高等学校6、特別支援学校2)]

第1回	H30. 5. 19 (土) 16:00～18:40 [委員14、教師18]	・冒頭講話(米原特別顧問) ・対談(米原特別顧問、伊東委員長) ・グループディスカッション
第2回	H30. 8. 1 (水) 16:00～18:40 [委員16、教師18]	・冒頭講話(牧田副代表幹事) ・質疑応答(牧田副代表幹事) ・グループディスカッション
第3回	H30. 12. 1 (土) 16:00～18:40 [委員20、教師17]	・冒頭講話(新田代表幹事) ・質疑応答(新田代表幹事) ・グループディスカッション

【令和元年度】

企業が求める人間力や実践的な取組みについて外部講師等による事例発表を行った後、子どもたちに必要な力やキャリア教育等について、グループディスカッションを行った。

[参加教師 21名(小学校6、中学校6、高等学校7、特別支援学校2)]

第1回	R1. 7. 29 (月) 16:00～18:15 [委員19、教師19]	・事業趣旨の説明(伊東委員長) ・グループディスカッション テーマ「子どもたちに身に付けてもらいたい力」
第2回	R1. 8. 29 (木) 15:30～18:15 [委員17、教師19]	・基調発表「長期社会体験研修を受講して」 (講師：群馬県高崎市立東部小学校教諭) ・グループディスカッション テーマ「キャリア教育について」
第3回	R1. 12. 26 (木) 15:00～18:10 [委員19、教師17]	・パネルディスカッション 「海外教育事情視察で学んだことの実践」 (パネリスト：第4～8回視察団団員5名) ・グループディスカッション テーマ「学んだことの実践」

VI)「教師と企業人との交流」に関するアンケート結果

【アンケート調査の概要】

- ・調査期間：平成30年12月6日～27日、令和2年1月8日～29日
- ・調査対象：「教師と企業人との交流」参加教師42名
- ・回答数：41名（回答率 97.6%）

問① 教師と企業人との交流に参加して良かったと思いますか。

- ☐ 大変良かった （33名）
- ☐ まあまあ良かった （8名）
- ☐ あまり良くなかった （0名）
- ☐ 全く良くなかった （0名）

問② 教師と企業人との交流に参加して良かった点、良くなかった点を具体的に教えてください。

【良かった点】

- ・普段会う機会のない企業人と交流でき見識が広がった
- ・物事を新しい角度で見る目を養うことができた
- ・新しい視点を持つことができた
- ・企業が求める人物像を具体的に知ることができた
- ・キャリア教育について具体的に考えることができた
- ・学校の実情、教育現場の悩みを伝えることができた
- ・学校の役割や学校に求められるものを改めて認識できた
- ・企業人が学校教育に大きな期待を持っていることが分かった
- ・異校種の教師との情報交換ができた

- ・普段会う機会のない企業人との交流ができ、見識・視野が広がった・・・36名
- ・企業が求める人物像を知ることができた、キャリア教育の参考となった・・・10名
- ・学校現場の実情について話し合うことができた・・・6名
- ・学校の役割や学校教育への期待・関心が高いことを認識できた・・・5名
- ・他校種の教師との交流、情報交換ができた・・・4名

【良くなかった点】

- ・時期的に厳しい日程が多かった、日程の都合をつけるのが大変だった
- ・経済人の意見を一方向に受け止めるだけになってしまい苦しさも感じた
- ・教師側に問われる場面が多く、もうすこし企業人の話を聞きたかった
- ・いろいろな方と交流できるよう毎回グループをシャッフルしてもよいのでは
- ・ディスカッションではテーマから外れる場面があった
- ・「人間力」の定義が不明確であった
- ・企業の現場を見る機会があると良かった

- ・「なし」が32名
- ・グループディスカッションのあり方（時間や進め方、メンバー構成、内容など）についての意見が多かった（16名）

問③ 当初の参加目的はどの程度達成されましたか。

- ☐ 十分達成した (14名)
- ☐ ほぼ達成した (24名)
- ☐ あまり達成されなかった (3名)
- ☐ 全く達成されなかった (0名)

問④ 学校現場において役に立つ又は活用できると感じた「気付き」がありましたか。

- ☐ あった (41名)
- ☐ なかった (問⑨へ) (0名)

問⑤ どのような気付きがありましたか、具体的に教えてください。

- ・自ら学びを求める子ども、社会で自立できる子ども、企業が求める人材を育成することが大切である
- ・相手の立場になって物事を判断できる力、人間性を育んでいく力をどのようにつけていくかの大切さ
- ・子どもたちに平等に教えるのではなく、それぞれの長所を伸ばすことの大切さ
- ・日々の教育活動において、子どもたちがどのような力を付けているかをより意識してみることができるようになった
- ・子どもの強みを見つけ、将来の役に立つような指導を心掛けたい
- ・勉強だけではなく「人を育てる」ということを意識すべき
- ・社会に貢献するという視点を考えていきたい
- ・「どういう生き方をしたいか」が大切。それを考えるうえで「何を大事にするか」「何のためにするのか」を明確にすること
- ・授業だけではなく、教育活動・学校生活全体がキャリア形成に深く関わっていること
- ・仕事への向き合い方や人間力の育成が本来のキャリア教育であること
- ・子どもたちの人間力向上と同時に教師の人間力を向上させることの大切さ
- ・豊かな人間を育てるには、教師が豊かな人間力をもっていることが必要
- ・子どもの「生きる力」を伸ばすため、教師は幅広い人との交流や経験が必要である
- ・教師自身が社会人であり、子どもに社会人としての姿を見せていること
- ・人との関わりの中で成長できること
- ・人と人とのつながり、コミュニケーションの大切さ
- ・リーダーの育成の在り方、組織をどのようにマネジメントしていくか
- ・教師の働き方について企業的な視点で業務改善できないかを考えることができた

- ・子どもたちや教師自身の人間力向上のためのヒントへの気付きと思われるものが多かった (30名)
- ・教師の育成・指導や組織マネジメント、教師の職場環境・働き方の改善についての気付きを挙げているものもあった

問⑥ 得られた気付きは活用していますか。

- ☐ 活用している (問⑦へ) (26名)
- ☐ 今後活用したいと考えている (問⑦へ) (15名)
- ☐ 活用したいができない (問⑧へ) (0名)
- ☐ 活用する予定はない (問⑧へ) (0名)

問⑦ どのように活用することを考えていますか。または、どのように活用しましたか。

- ・授業、学級通信等での児童・生徒への学んだことの伝達
- ・他校や異校種の教師との交流の拡大
- ・部活動における自主的運営方式の強化
- ・後輩教師への指導、同僚への伝達
- ・教育活動における企業との協力体制の構築
- ・学校、生徒の利益に加え社会貢献という視点も考えた教育活動の展開
- ・地域活動への参加による交流の拡大

- ・「授業・指導における活用」が多く（30名）、次いで「教師間の交流での活用」（5名）、
「学校運営での活用」（4名）
- ・「企業との連携強化」「地域活動への参加」「後輩教師の指導」という意見もあった

問⑧ 活用できない、または、活用する予定はない理由を教えてください。

（なし）

問⑨ 今後、同じような企画があった場合に参加したいと思いますか。

- ☐ 参加したい （40名）
- ☐ 参加したくない （1名）

問⑩ 企業人の教育に対する協力、支援でどのようなことがあればよいと思いますか。

- ・児童・生徒への講演（課外授業）
- ・研修での講演、若手教師への講演
- ・企業見学や職業体験の受入れ
- ・小学生向けの職場体験や見学
- ・企業での社員教育、研修への参加
- ・企業の若手社員による講演
- ・より多くの教師が企業人と交流できる機会の創出
- ・働き方改革・業務改善等の実践紹介
- ・教師なり手不足解消への協力
- ・教材開発、教材提供への支援
- ・教育カリキュラムの共同策定
- ・学校運営協議会への参画

- ・「児童生徒への講演」（22名）、「教師への講演」（8名）、「企業見学・職場体験」（7名）
その他多岐にわたる意見があった

問⑪ 今後、同じような企画があった場合、どんな話を聞きたいですか。

- ・社会・企業で求められる人材について
- ・企業で行われている「親育」について
- ・企業人のこれまでの人生について（成長、挫折など）
- ・企業における新入社員・若手社員の実態、社員教育の取り組み
- ・管理職として大切にしていること
- ・多様な考え方や才能を活かす環境の作り方
- ・世界の教育事情
- ・教育に対しての本音
- ・働き方改革の実践内容
- ・もっとたくさんの方と話がしたい

- ・様々な意見があった中で、複数あった希望としては、
「企業が求める人材」（6名）、「会社経営・マネジメント、働き方改革・業務改善」（5名）、
「海外の教育事情」（5名）、「会社内での人材育成、社員教育」（3名）など

問⑫ 交流の実施時期、時間、会場等についてのご意見を聴かせてください。

- ・ 課業期間外（夏休み、冬休み）であれば参加しやすい
- ・ 部活動の大会のある時期、定期考査、成績処理の時期の参加は難しい
- ・ 土日の午前中、土曜日の夕方、金曜の夕方、平日がよい
- ・ 長期休業中で、開始も夕刻だったので参加しやすかった
- ・ 8月下旬は2学期が始まっているので、その前がよかった
- ・ 仕事の都合で参加できないこともあるので、開催回数を増やせるとよい
- ・ 駅に近い場所がよい

- ・ 初年度の意見を踏まえ、2年度目は、長期休暇期間中（夏休み・冬休み）、夕方以降の開始、公共交通機関が利用できる富山駅周辺での開催としたところ、「特に問題ない」という意見が多かった（18名）

問⑬ 交流全般を通じての感想や経済同友会に対する要望、意見などをお聞かせください。

- ・ 大いに学ぶところがあり貴重な機会となった
- ・ 自分自身の生き方等について見直す機会をもらった
- ・ 教育界はかなり閉ざされた社会であるが、企業人と触れ合うことで大変刺激になった
- ・ 限られた環境や人間関係の中にいると課題意識が生まれにくいと思うが、交流に参加して自分の考え方、働き方を振り返ることができた
- ・ 教師には独りよがりな考え方があるということを強く感じた
- ・ 社会を知らない教師は、社会に出る子どもを育てることはできないと気づいた
- ・ 教える立場であるがそれ以上に自己の向上に努めていきたい
- ・ 教師以外との交流により自分の考えを異なる視点で捉えることができた。幅広いものの見方で教育を捉えていきたい
- ・ 「人との出会い」を大切にしていることを感じた。自らも仕事以外の人との関わりを持ち、視野を広げ、深い学びのできる人づくりに努めたい
- ・ 学校現場は多忙化しており参加が難しい
- ・ 「企業はいつでも支援する」という力強い言葉に励まされた
- ・ 世界は変化していくのに、学校は内側からの変革が難しい。どんどん学校に介入してほしい
- ・ 地域社会で活躍する人材の育成は教育活動の大切な観点であるが、その手立ては十分ではない。企業人と密接に連携できる可能性を探っていきたい
- ・ 今後も交流が継続していくことを期待
- ・ 現役教師と同世代の企業人との交流会があれば面白い

- ・ ほとんどが本交流について前向きに捉える意見であった
- ・ 「多忙により参加が困難」との意見もあり、参加しやすい交流のあり方について検討が必要

Ⅶ) 第11次教育問題委員会 委員名簿 (令和3年3月現在)

	氏 名	会 社 名	役 職
委員長	伊東 潤一郎	アイティオ(株)	取締役社長
副委員長	上田 信和	砺波工業(株)	取締役社長
副委員長	尾山 謙二郎	マンパワーセキュリティ(株)	代表取締役
副委員長	川合 紀子	(有)ステップアップ	代表取締役
副委員長	島田 好美	(株)島田商店	代表取締役
副委員長	高瀬 幸忠	(株)スカイインテック	専務取締役
副委員長	田村 元宏	(株)タムラ設計.	代表取締役
副委員長	寺下 利宏	(株)ソシオ	代表取締役
副委員長	福崎 秀樹	(株)フクール	代表取締役
	四十物 直之	(株)四十物昆布	取締役社長
	青山 嵩	青山嵩法律事務所	所長
	石坂 兼人	石坂建設(株)	取締役社長
	市森 友明	(株)新日本コンサルタント	取締役社長
	稲葉 伸一	(株)三四五建築研究所	代表取締役
	稲葉 実	(株)三四五建築研究所	主宰
	大澤 晃男	(株)宝来	代表取締役
	尾城 敬郎	三菱商事(株)	北陸支店長
	米屋 慎一	北星ゴム工業(株)	取締役社長
	齋藤 滋	富山大学	学長
	杉浦 孝典	(株)J T B	富山支店長
	高野 二郎	タカノ建設(株)	取締役社長
	土屋 誠	日本海ガス(株)	取締役社長
	戸塚 健	富士通(株)	富山支店長
	中川 雅弘	(株)K E C	代表取締役
	中西 修	富山テレビ放送(株)	取締役社長
	丹羽 誠	(有)ライフプラン研究所	代表取締役
	林 和夫	朝日建設(株)	取締役社長
	林 敬三	(株)サンショウ	取締役社長
	廣田 健一郎	廣田司法書士・土地家屋調査士事務所	代表
	藤井 裕久	(株)藤井産業	取締役会長
	藤井 喜大	(株)ネクストリー	代表取締役
	牧田 和樹	(株)牧田組	取締役社長
	榊田 隆一郎	(株)榊田酒造店	取締役社長
	森 弘吉	(株)エムダイヤ	代表取締役
	山岸 達	(株)ドコモCS北陸	富山支店長
	山崎 義明	(株)山崎製作所	取締役社長
	山田 雅人	成政酒造(株)	取締役
	山野 昌道	(株)チューリップテレビ	取締役社長
	若林 健嗣	日本海電業(株)	代表取締役
担当役員	大橋 聡司	大高建設(株)	取締役社長

(40名)

富山経済同友会

〒930-0856 富山市牛島新町5-5 インテックビル4階

tel. (076) 444-0660 / fax. (076) 444-0661

ホームページ <http://www.doyukai.org>